

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームぬくもりの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県南陽市柵塚929番地
記入者名 (管理者)	竹田 洋子
記入日	平成 20年 11月 4日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に地域の方々との交流を大切にするとかがけ、日々の生活の中で地域の店に買い物に出かけたり、なじみの人が訪れやすい雰囲気づくりを心掛けている。	○	地域の店に週2～3回買い物に出かけている。また天気の良い日は散歩に出かけて近所の人と触れ合う機会をもつようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で話し合い理念をつくりあげた。理念を実践し、より良いケアができるように日々取り組んでいる。	○	新しい職員に理念を伝えた。ミーティングや関わりの振り返りの時に理念にふれ確認していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の集まりの時にホーム便りを活用し、分かりやすく説明し理解してもらえるように努めた。地域の方へは広報誌やホームページで事業所紹介をし理解してもらえるようにしている。	○	ホーム便りは年3回発行している。地域の方にも広報誌を発行し事業所の様子を伝え地域の人に理解してもらえるよう努めている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩の時近所の人に進んで挨拶している。また気軽に立ち寄ってもらえるように声がけしている。	○	今後も職員が率先して挨拶をおこない、近所の人達が気軽に立ち寄って頂ける様努めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会に参加し地元の人と交流した。また夏祭りに参加し多くの地域住民と交流した。さらに地域のボランティアの受け入れをし、お茶会や踊りの会を催し交流した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の相談に応じたり、見学を受け、事業所の取り組みや認知症について理解してもらえるように努めたり、実習生を受け入れグループホームを理解してもらえるようにした。	○	今後も相談・見学や実習生を受け入れていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、改善点について話し合い、改善計画をたててその実施にとりこんでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際について報告や話し合いの場をもうけている。外部評価の結果についても会議で知らせた。	○	グループホームの食事を食べてみたいと言う意見が出され、家族の人には試食してもらった。委員の方にはお茶会に参加してもらったが今後、食事会にも参加してもらいたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他にも分からない事があれば直接市に出向いたり電話等で相談している。	○	事業所だけでは解決できないことがあれば市の担当者に相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度が必要な人には活用できるように手続き中である。	○	制度についての勉強会を繰り返しおこなったり、外部の研修会があれば参加しさらに理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を開催し職員全員が理解するように努め、虐待防止に取り組んでいる。	○	利用者の体の変化に気付いた時は、みんなに伝え情報を共有する等、常に注意深く見守るようにしている。虐待防止について繰り返し学習していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学してもらい、契約書については詳しく説明し理解を得るように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声を大切に意見、不満、苦情については会議等で話し合い、意見を取り上げたり、改善し利用者が満足して暮らせるように努めている。	○ 利用者の声や行動等を注意深く受け止め、不満等を解消できるところは改善している。また、今後も改善に取り組み満足して過ごしてもらえようようにしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等は毎月文書で報告している。広報誌は年3回発行し、職員の異動や利用者の生活の様子や行事を伝えている。必要時はその都度連絡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事前に外部も含めた苦情窓口についてはお知らせし、その他にも家族の意見には謙虚に耳を傾け、改善すべき点は改善し満足していただけるように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議で職員の意見や提案を聞き、その後、さらに上の会議等に出して意見や提案を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせて必要に応じて勤務調整を行い職員の協力を得ている。職員の急病時は人事部に相談し応援者を派遣してもらった。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動で交代した時は、引きつぎの時間をとり利用者を十分理解してもらった。また利用者にはきちんと紹介した。	○ 又、数ヶ月に一回異動した職員が施設を訪れ、話す場を設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ職員全員が、法人内外の研修に参加できるように配慮している。また、施設会議の時に学習会や伝達研修をして全員がレベルアップできるようにしている。	○	研修報告書いつでも閲覧できるようにしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し研修会に参加したり、地区のグループホームのブロック会議に参加し、他の施設の情報を収集し、それをサービスの向上に役立っている。	○	市内のグループホームとは、必要時に連絡を取り合っているが、今後、相互訪問や意見交換等もしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会の他に、法人全体の互助会でも交流会や親睦会、旅行等開催し気分転換をはかり、ストレスを軽減するようにとりくんでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上期と下期に分けて課題目標管理表に各自目標を設定し仕事に取り組んでいる。半期ごとに実績や頑張りを評価し各自が向上心を持って働けるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人と面談し、生活状況や心身の状態を把握している。又、ホームに足を運んでいただいた上で、本人の思いを聴き、安心してもらえるよう努めている。	○	面談を行う機会を多く持ち、本人の思いや状態にあったケアプランを作成し対応していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談を行い、家族のこれまでの苦労や思い、又、サービスの利用状況などをしっかりと聴き、信頼関係がつけられるように努めている。	○	事前面談の他、不安な事、疑問に思う事、ケアプランについての希望があれば、電話での問い合わせにも対応し、安心していただけるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、心身の状態を把握した上で、他サービスの利用が望ましい場合は、他のサービスを紹介するなどの対応を行っている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で一緒に過ごす時間を多く持ち、その方が持っている能力や個性を見極め、引き出せるように努めている。昔ながらの風習や、調理のポイントなどを教えてもらい実践している。	○	青菜の干し物や、干し柿、畑作りを教えてもらい実践した。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族が頻繁に来所されており、その際ホームでの生活の様子を伝えたり、家族から以前の生活の様子を改めて聴き、ケアに活かしている。	○	ホームでの生活を知り、一緒に楽しめるよう家族を招待して芋煮会を行った。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠がちな家族には連絡を取り、ホームでの様子、心身の状態を伝え関係が途切れないように努めている。家族の協力がなければ実現できない本人の希望を伝え、実現できるよう働きかけている。	○	お盆やお正月に家族と一緒に過ごす機会が持てるよう、早い時期から外出や外泊を勧めている。 お墓参りの希望があれば家族に依頼している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす馴染みの知人、友人の面会を歓迎し、又、電話連絡を手伝い、継続的な交流が出来るように支援している。	○	馴染みの人や親戚に対して、年賀状を出している。 踊りを教えている友人に連絡し、敬老会に踊りを披露してもらった。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事の時間に職員も同席し、会話が円滑になるよう働きかけている。気の合う者同士のかかわりだけにならないよう、歌会やクイズ体操などのプログラムを全員で行っている。	○	2～3人のグループに職員が加わり、楽しく会話しながら、貼り絵や畑の手入れ、作物の収穫を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームを移られた方や、サービスを終了した方に会いに行き、関係を断ち切らないよう努めている。	○	ホームを移られた方に手紙を出した。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の状態の把握に努め、表情、言動等を見てどのような状態であるのか情報収集し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活のしかた、暮らし方を本人や家族・友人・知人から聞き把握し、少しでも負担のない生活が送れるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の一日のリズムを把握し、朝のバイタルチェック時などに体調の変化をいち早く気付けるように努めている。また、ADL面や家事などで出来る事出来ない事を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人や家族の要望を聞き、定期的なカンファレンスを行い職員で意見を出し合いながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時は、本人や家族、また本人の必要な関係者と密に話し合い、意見や要望を出してもらい、介護計画の見直しを行っている。	○	モニタリング表を活用しながら現状に沿ったケアを行うようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、各個人の様子、言動、バイタルを記入し、月末に振り返り、関わり方の継続や見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地域で催される敬老会や花火などに参加、また、ボランティアをまねいての踊り(日本舞踊)をお願いするなど協力を得て支援している。	○	読書が好きな利用者があるので図書館の利用を行っていききたい。また、今後も地域の行事に参加していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	月に一度床屋さんに訪問していただき、理容サービスを利用できるようにしたり、必要な時は互助会を利用するための支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところそのような事態は発生していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を行い医師との連携を図っている。体調不良時などは迅速に対応できるような体制ができています。	○	同法人の病院への受診は職員が通院介助を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医師による診察を定期的を受け、個々の状態に合わせた適切な指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師に訪問してもらい、心身状態の観察や医療面での相談をし、助言や指示を頂きながら健康管理に努めている。	○	同法人の病院と連携しており、日中、夜間の急変時にも対応できる体制が整っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院時は家族と連携をとりながら対応している。入院時は安心して過ごせるよう面会に行き、状態の把握や病院関係者と情報交換を行い早期に退院できるように努めている。	○	入院時には面会に行き、状態の把握や家族と連絡をとりあい、早期に退院できるよう努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し、家族に説明し同意を得ている。職員間では本人と家族の意向に合わせ、かかりつけ医と相談し支援していききたいと考えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時はすぐ対応できるよう連絡体制を作り、取り組んでいる。しかし、終末期にむけた支援をする場合は知識や技術が不足しているように思う。	○	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員と連携を図り、安心して終末期が過ごせるよう配慮していきたい。自己学習、研修を行い、職員の知識、技術を高めていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の生活歴や支援内容、注意点など詳しく情報提供することで、環境の変化によるダメージを最小限にできるよう努めている。	○	退去後も面会に行き、安心して生活できるよう努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の誇りやプライバシーに関わるような話は、個別に他の方々に情報が漏れないように気をつけている。声掛けも自尊心を傷つけないように心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択出来る場面を多く提供し、利用者が発言しやすい環境を作るように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、特に時間を区切った過ごし方はしていない。その日、その時の体調や気持を尊重している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	床屋さんの出張サービスを行っている。また、ご家族の協力を得て本人の望む店に行けるようにしている。着替えの再も、本人の意志に添うように支援している。	○ 職員と一緒に店へ買い物に行き、好みの服を買っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片づけまで一緒に行えるようにしている。また、希望や好みに応じたメニューを提供している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きな飲み物や食べ物を提供できるように、日頃の情報収集に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄パターンを把握している。	○	便秘気味の方々に手作りのドリンクを提供し、少しでもスムーズに排泄できるように試みている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間に関わらず、希望に応じて入浴を楽しめるようにしている。	○	同法人内の温泉施設の利用を検討している。他にも地域の温泉の資源である足湯にも出かけている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心地良い環境を提供するために居室の空調湿度管理の徹底に努めている。また、夜間ゆっくり休めるように日中は活動を促し、生活リズムを整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、洗濯たたみ、畑作り、干し柿作り等、一人一人が得意なことで力が発揮できるような場面を作り、感謝の言葉を伝えている。希望に応じ気晴らしに外出する機会を設け楽しんでいただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する力があり本人が希望する場合は、小額を手元に置き必要に応じ使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等その人の希望に添って日常的に外出を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望があれば、温泉施設への外泊、自宅への帰省、墓参り等実現出来るよう家族の協力を得て支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話等で話が出来るようにしている。また、年賀状や手紙を出したいという希望があればいつでも支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人がいつでも気軽に訪問出来る様な雰囲気作りを心掛けている。椅子や飲み物を提供しゆっくり過ごしていただける様配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の意識を高め、身体拘束をしないケアを実践するため、勉強会を実施したり、日々のケアを振り返り、身体拘束が行われていないかを点検している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	外出を希望された時は、できる限り職員が付き添い、外出している。気持が不安定な状態で外出の希望があるが、どうしても対応できない時は、他の興味あることに誘い、気持が落ち着くように対応している。	○	気持が落ち着かなくなる時間帯や理由を把握し、職員と同じ場所で過ごせるよう工夫し、鍵をかけないケアに努めた
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	バイタルチェック時やプログラム、食事の時など、会話を交えながら状態把握を行っている。夜間は定時に巡視し、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬はキャビネットに施錠し保管している。洗剤や刃物は利用者様の目につかない決まった場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットミーティングを月1回行い、報告をもとに事故防止策を検討し、ケアプランに取り入れて一人一人の状態に合った事故防止に取り組んでいる。緊急を要する場合は、早急にミーティングを行って対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急士を講師に招き、応急手当や対応の訓練を行った。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の避難訓練が年2回、ホーム独自の避難訓練も年2回予定されており、夜間を想定した火災の避難訓練は実施した。	○	地震災害を想定したホーム独自の避難訓練も実施予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて対応策を検討、把握し、家族にも説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックをし、状態観察を行っている。異常があれば、早めに受診し、結果を申し送りノートや記録に残して情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、内容をすぐに確認できるようにしている。処方内容の変更があれば、状態観察を行い、医師に報告している。服薬に関するマニュアルを作成し、誤薬がないように注意している。	○	薬の目的、副作用、用法、用量について学習会を行った。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェックし、一人一人の排便サイクルを把握している。おやつ時間に、野菜ジュースやバナナジュースを提供したり、運動を促す等便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの声かけを行ったり、介助が必要な場合は義歯のブラッシングなどを行っている。口腔状態に異常があれば、歯科受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を写真と献立表に記録し、定期的に管理栄養士よりアドバイスもらっている。一人一人の状態に合わせ、食事量、食事形態を工夫し、摂取量を記録している。午前・午後のお茶会で、水分を確保できるよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する研修会に参加し、学んだことを持ち帰り、学習会を行った。家族に同意いただき、職員も含め、インフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は必要な分だけ購入し、使い切れなかった物は賞味期限を板に書き出し、早めに使うようにしている。まな板、フキンなどは、塩素系の消毒液に浸し、消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、プランターで花を栽培し、明るい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が共同制作した貼り絵や塗り絵などを掲示したり、季節の行事に合った飾りつけ(七夕飾り・だんごの木)を行い、明るく季節感のある環境作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼のスペースで、横になったり、新聞やテレビを見て一休みできる空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやたんす、家族の写真や時計など利用者様の好みや馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に温湿度計を設置し、利用者様の状態や好みにあわせて調整している。乾燥する冬季間は、加湿器を使用し、湿度管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーになっているため、段差がない。廊下には手すりがあり、杖歩行や、少々ふらつく方でも、自力で移動している。不安な方のみ、手を貸したり、車椅子を使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	名前の札を作り、部屋を間違えないようにしている。又、部屋入り口の床に、赤いテープを貼り、「自分の部屋である」とすぐに認識できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの近くに畑を作り、野菜を栽培し、苗植え、水やり、収穫を楽しめるようにしている。また、目の前に中庭があり、桜から紅葉へと季節感を味わうこともできる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内に病院(精神科・内科・歯科・心療内科)や老人保健施設があり、健康面・医療面でなじみの先生に迅速かつ継続的にみて頂くことができ、利用者様、ご家族様ともに安心して生活を送る事ができます。食事面では利用者様の嗜好や栄養のバランス・旬の食材を取り入れ季節感のある献立に配慮し食事を提供しています。外出して楽しめるようなレクリエーションを月1回行っています。